



グループ通信

発行/ふれディアグループ本部 編集部

〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4

朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎0120-116-017

こんにちは、ふれディア通信編集部です。春の訪れとともに、庭先や公園などを彩る草花の種類が増えてきましたね。スイセンやスミレ、チューリップなど、たくさんの草花が行く先々で目を楽しませてくれます。その中でも今の時期に特に気になる花といえば、サクラではないでしょうか。サクラは美しい花を見せてくれるだけでなく、桜湯や桜もちなどの食べ物としても親しまれています。樹皮は咳止めなどの薬の原料になりますし、伝統工芸品の材料としても使われています。また、サクラが咲き始めたら農作業を本格的に始める、という地域もあると聞きます。日本人に古くから愛されてきたサクラは、日本の国花といわれていますが、日本のパスポートに印刷されているのはキクですよ。日本を象徴するのはサクラとキク、どちらなのでしょう？結論としては、どちらも日本の国花です。国花の決め方を調べてみたところ、日本の場合は法律で決まったものではなく、どうやら「昔から親しまれてきている花だから、国を象徴する花になっている」ということなのです。キクは、馴染み深い花であるとともに、国民の象徴である皇室の御紋にもなっていますので、日本を象徴させる花としてふさわしいとされたのでしょうか。世界に目を向けてみると、国花が2つある国は結構あります。その国の法律で決めてある国もありますし、日本と同じように法的な根拠はないけれど習慣的に決まっている、という国も。アメリカのような多民族国家では、国内に様々な文化があり、1つや2つの花を選ぶことが難しくなるので、国ではなく地域を代表する花を決めているようです。国の象徴として特定の植物を選んで紋様などに図案化するのは、古代エジプトの時代にはすでに始まっていたそうですよ。国花は、王家の紋章や、その土地の伝説や宗教、産業にちなんだ花が選ばれることが多いようです。必ずしも色鮮やかな花が選ばれているというわけでもなく、アイルランドのシロツメクサの葉のように、宗教の教義を象徴する形のものが選ばれていたり、花というよりも大切な作物として、イネやタケが選ばれていたりする国もあります。普段、何気なく目にしている植物もどこかの国花かもしれませんね。では、今月も元気に過ごしましょう。

ふれディア通信編集部

幸福の前ぶれ？
不幸の予兆？

ラッキージンクス & アンラッキージンクス

今月のジンクス 「てんとう虫にまつわるジンクス」



春になるとたびたび見かけるようになるてんとう虫。実は、てんとう虫はラッキーアイテムのひとつとされています。日本では太陽（＝お天道さま）に向かって飛んでいくことから「天道（てんとう）虫」の名がついていますが、英語では「Ladybug」「Ladybird」「Ladybeetle」と呼ばれています。この「Lady」は聖母マリアを意味しており、イギリスでは「聖母マリアの使い」とも呼ばれているそうです。そんな名前の通り、てんとう虫が体にとまると「幸運がやって来る」とか、「飛んで行った方角に運命の人がいる」とか、病気の人のもとを訪れると「病が去る」なんていうハッピーなジンクスは多数あります。また、てんとう虫が家の中に入ってくると金運が上昇し、斑点が多いほど金額もアップするなんて話もありますから、斑点の数にも注目です。てんとう虫モチーフのアクセサリーなどを身に着けておくと良いことがありそうですね。



日本や世界には、さまざまなジンクス・迷信・言い伝えがあります。ただし、ジンクスはあくまでもジンクス！ アンラッキーなジンクスが起きても科学的な根拠はありませんのでご安心ください。